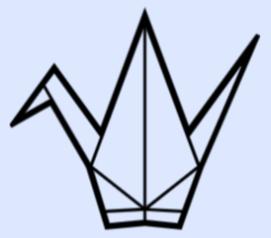


折鶴で描く

中村崇浩の世界

N
A
K
A
M
U
R
A

T
A
K
A
H
I
R
O



【開催日時】

※展示は各店舗の営業時間内となります※

- 6/22 土 → 6/30 日 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール (港北区)
- 7/9 火 → 7/16 火 JA横浜 都田支店 (都筑区)
- 7/22 月 → 7/26 金 JA横浜 神奈川支店 (神奈川区)
- 8/2 金 → 8/8 木 JA横浜 いずみ野駅前支店 (泉区)
- 8/22 木 → 8/28 水 JA横浜 港南支店 (港南区)
- 9/5 木 → 9/11 水 JA横浜 金沢支店 (金沢区)

作者プロフィール

中村崇浩 (なかむらたかひろ)

3歳になる少し前の交通事故が原因で車いす生活となる。手の訓練を兼ねて折り紙を始め、中学の教師に薦められて折鶴の貼り絵を始める。

大人になってから千羽鶴で作った絵が評判を呼び、作品をとおして色々な人たちと繋がりを作るようになる。

作品に用いる折鶴は、1.875cm四方の紙をピンセット等を使わずに全て指先だけで折りあげる。

「鶴を折って増えていく面白さ、貼っていった絵になる楽しさ、完成間近のワクワク感、完成時の達成感など、作品作りは楽しい。一つの作品として観るほかに、一羽一羽じっくり観ると羽の大きい鶴や首が長い鶴がある。個性のある鶴を探して欲しい。周りとは違う色の鶴(個性)が入ることで全体が明るくなる。この作品を鑑賞した方々が前向きな気持ちになってくれたら嬉しい。」と作者は言う。